

## 都市環境デザイン会議 北陸ブロック総会

今期のブロック総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から WEB 議決とし、会員 53 名中、43 名から表決いただきました。

### <議事要旨>

- ・第 1 号議案 第 29 期北陸ブロック活動報告及び収支報告、第 2 号議案 第 30 期活動計画・収支計画は、無事承認されました。  
→次期開催地は、2020 年秋に石川、2021 年春は福井の予定です。  
→活動費は、正会員等の会費額と会員数による荷重配分方式により配分され、北陸ブロックは 30 万円となっています。
- ・第 3 号議案 次期ブロック幹事は、野嶋慎二氏（新任）／福井大学大学院工学部・工学研究科教授が承認され、任期 2 年（2020.6.1～2022.5.31）お願いすることとなりました。
- ・公募制プロジェクト「自然物が創る街の魅力に関する研究その 2」の活動報告として、鏑隆弘氏より、東北ブロックとの共同公募制プロジェクト

「魅力再発見！東北酒蔵プロジェクト」の活動報告は、上坂達朗氏より調査報告をいただきました。

- ・ 埜正浩理事より、第 29 期総会、全国大会 in 石巻・女川大会の報告、また、規約の改正、会員内規の改定、役員選出規定の改正等が、5/17 に WEB 開催された臨時総会で可決成立され、次期（第 30 期）の理事には新田川貴之さんが、監査役には辻隆治さんが立候補されており、総会にて承認される予定だということが報告されました。
- ・ 30 期の活動スケジュールとしては、8/8 に定例総会が WEB にて開催、9/25～27 に全国大会 2020in 四国が開催される予定です。
- ・ 新入会者は、酒井信次氏、牧口和希氏の 2 名、計 53 名となっています。
- ・ 今後はコロナ禍の状況を鑑みながら、北陸ブロックの活動等については検討していきますので、より多くの会員にご協力いただきたいと思います。

## 都市環境デザイン会議北陸ブロックフォーラム 2020

日 時：2020 年 11 月 28 日（土）15:00～17:30

方 法：オンライン開催

参加者：会員 35 名（北陸ブロック 27 名、他ブロック 8 名）、一般 29 名 計 64 名

プログラム：

### ◎基調講演

「自然物が創る都市の魅力」

鏑 隆弘氏（金沢美術工芸大学・JUDI 会員）

### ◎パネルディスカッション

コーディネーター

鏑 隆弘氏（金沢美術工芸大学・JUDI 会員）

パネリスト

上山 寛氏（上山アトリエ・JUDI 会員）

島津 勝弘氏（島津環境グラフィックス 有・JUDI 会員）

新田川貴之氏（(株)国土開発センター・JUDI 会員）

峠岡 伸行氏（福井県経営者協会・JUDI 会員）

フォーラム「自然物が創る都市の魅力～北陸 4 県の魅力の再発見～」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、北陸ブロック初の WEB 開催となり、

JUDI 北陸メンバー 27 名に加え、他ブロックから 8 名、一般参加者 29 名、計 64 名にご参加いただきました。

まず、北陸ブロック幹事の野嶋慎二氏が挨拶され、司会・進行は埜正浩氏が務めました。



北陸ブロック幹事 野嶋慎二氏

## ■ 基調講演(概要)

### ◆「自然物が創る都市の魅力」

鏑 隆弘氏(金沢美術工芸大学・JUDI 会員)

都市の中での自然というのはどういう風に扱われてきたか。都市とは、端的に言えば人為活動の集積地。ここでは利便性や効率を追求してきている。特に産業革命以降、利便性や効率の追求は都市の使命ということだったと思う。自然物主体の環境からすれば、人為活動の方が当然大きく優先され、樹木等の自然植生の広がりには認識としては何も無いという扱い。また、農地というのは、お金を生みにくい非効率的な所という認識として開発対象となったのだと思う。いろいろな都市計画を考える時に、農業振興地域は重なっていても、行政の中で結構軽視されていると思う。

都市の中で大正 8 年の旧都市計画法の中で制定された「風致地区」というのが今でも設定されている。近年、風致地区の扱いは、県の扱いから市町の扱いとして変わったが、風致という名前から見ると美的な風景の扱いだと私も思っているが、そうではなく森林の過剰利用の防止ということが本来の目的。

それから緑地に関する計画。近年はようやく緑の質や自然性の高さ、周りの人為的な圧力がどのくらいあるのかといったものを考慮して扱うようになったが、都市計画の中で、緑地はどういう風に扱われてきたかという、良好な自然環境を意図的に残した所。良好な自然環境の解釈は人によっては違い、公園があるから良いということもあるが、公園は、都市住民にとっての屋外空間の快適性のある程度の緑とともに提供できるよう創出した場所。なので自然物が主体の空間ということでもなく快適なら良いということ。公園ができた歴史を思うと私は少し切ない。

気象庁の生物季節観測の種数が縮小され、植物の開花も 30 種類以上あったのが、今後は 6 種類。鳥の初鳴きなど動物、虫は 24 種あったが、もう使いませんということ。気候変動で生物による季節観測の時期が大分ずれて、もう意味がないということで変わったようだが、とてもさみしい。

借景に見る遠景の自然物。京都の無鄰菴。明治時代の植治の庭から見る東山。この時代の庭園の評価は、外国では自然風景の再現という美術的な造形で、日本の自然物を上手に扱い、自然を取り込んで入れるという評価と少しずれている感じらしい。1800 年代、250 年ほど前に借景という手法が出来たとされている。この時代は山も手前の石組みも全て

霊性のあるもの、神様や仏様として扱っていた。単に風景を手前の庭に取り込むというよりは、自身の空間の中に神様に来てもらうという意味合いであるという風に理解できる。

城下町で扱われた山の眺め。加賀藩、前田家の墓から、大乘寺山、白山を繋げて浄土とのつながりを演出していたという風に言えると思う。16 世紀の末にここに城を構えた時、まず先祖の墓の位置を白山が見える一直線上に決めている。こういう自然物を先祖のものとして扱うことをこの時代はしている。先祖が眠る白い世界、神様の白い世界をまちなかまで引っ張ってくるデザインを、城を造ったときにしたというのは、都市として意図的に作られた形として、とても魅力的だなと感じる。

まちの景観の魅力を測る尺度として、もののあはれという美しさ。これは鎌倉時代にできた言葉だが、月見や白い世界など無常観を背景にした感覚で、花が散った様子をみていいなと言うのはこの国の人だけである。都市景観において美しいというようなもののあはれというような尺度を持つほかに、今、積極的にできることとすれば、自然物を景観の中に積極的に取り込むという手法。土木的にも建築的にも色々できることがあると思う。



基調講演 鏑隆弘氏

## パネルディスカッション

### ◆「自然物が創る都市の魅力」

北陸 4 県の魅力再発見(新潟編)

上山 寛氏(上山アトリエ・JUDI 会員)

都市景観を考えた時に、自然物がどういう関わりを持って来るか。都市の歴史が自然を駆逐してきた歴史であるとするならば、都市に緑や水辺を持ち込むことが快適だという捉え方があると思う。

一方で新潟の都市の歴史をみると、自然と格闘してきた。どうやって生活を成り立たせていくのか。

大地が大きく変貌していく中で、川の流域が変わり、海と陸のせめぎ合いの中で、どうやって港町をつくってきたか？その自然との関係において、水に翻弄されて水と闘って勝ち取ってきた、困難を克服してきたという意識が強いのではないか。

物語性や歴史性、今は跡形が無くなったかもしれないが、大きな水や緑、大地といったものが、どう変化してきたか。自然物、緑や水辺が人間に対して快適性をもたらすと同時に、今は隠れてしまったかもしれないが、人間の生活といかに関わってきたのか。自然物とどういう風な形で折り合いをつけて人間が生活してきたのかといった所に視点を当ててみることもひとつのポイントではないか。

#### ◆「自然物が創る都市の魅力

立山あおぐ特等席 TOYAMA」

島津 勝弘氏（島津環境グラフィックス(有)・JUDI 会員）

土地の魅力の象徴たるもの。富山は何だろう？と。やはり立山の特等席ということ。富山の四季の自然のその奥にあおぐ立山。立山は空と一体化していて、自然物と言うには大きすぎるくらい象徴性がある。揺るぎない自然物ではあるが、ここに自分たちはどうやってデザインを落していくか。

まちの中をどこから切り取っても、雄大な立山が見えてくる。このなかに自分たちはデザインを沢山落としてきているが、この雄大さを私の中では自然の邪魔をしない心地よいデザインをデリバリーしていく。その手前のレイヤーに映ってくるデザインをどうデザインしていくかということが、すごく大事なかなと思っている。

都市デザインというのは私たちの生業であり、いかに自然物と自然とそこにレイヤーデザインとして乗っかるデザインをデリバリーしていくことの大切さがある、そこに人の賑わいもあるということを日々考えながら、デザインをしている。

#### ◆「自然物が創る都市の魅力」

新田川貴之氏（株）国土開発センター・JUDI 会員）

都市は自然が生み出した地形の上に成り立っているもので、自然物とは密接な関係にある。水は飲み水や防災のために必要なものであり、石は都市において土留めや擁壁などで構造上必要な物としても利用されている。緑は、かつては建物が樹木によって作られていたが、そういう機能的な面だけではなく、都市の中の緑というのは存在していて、わざわざ植えてまで都市の中に存在させようとしているものであるため、機能性だけでは語れないということが緑の魅力。

都市の中の緑はどういう風であればいいのか。まず都市の中に緑があった方が良い。緑をつくる場所は色々あって、公共空間でもあれば、民地でも緑は創出できる。都市の魅力を作る緑を見る場所、視点場の設けも大事。1日の中で都市の中にある建物はなかなか形を変えないが、太陽と共に緑の表情はとも変化する。一年という単位、数十年という長い目で見ても、時間を感じさせる自然物だ。また、住民の思いが込められることで物語が出来き、都市において変わらない存在となっていく緑もある。

#### ◆「自然物が創る都市の魅力

城下町大野の魅力とその活用策を考える」

峠岡 伸行氏（福井県経営者協会・JUDI 会員）

まちなか観光の魅力は食と人の出会い。まちなみや山々、木々の緑、川面の揺らぎは楽しさや癒しを演出する仕掛けだ。出会いと自然物の癒しは緊張と緩和だと思うが、こういう適度な繰り返しの楽しさが、疲れずに繋がり、長時間の滞在やリピート訪問に繋がっているのではないか。観光行動の中で刺激を求める反面、目から感じる癒しも重要なポイント。そういう面では自然物はすごく大事。

ただどう活用するか？例えば大野城。天空の城で有名かもしれないが、緑のなかに浮かぶ大野城を眺めるのもすごく素敵だと思う。ただし、それだけではなにも伝わらない。出来れば、住民のまち歩きガイドが関わっていて紹介をすることで地域文化としての価値、城だけではなく山や緑、地域が持つ文化的な価値も伝わるのではないか。あることとこの良さだけではなく、それをどう活用していくか、活用していくためには何を足したらいいのか、どういう風なものを引いたら良いのかということも工夫をしていく必要がある。



パネルディスカッションの様子

(鰐氏) デザインの中で色を変える自然物は非常に扱いにくい。その時の考え方を教えて頂きたい。

(島津氏) 基本自然は動いているものだと思うが、その季節季節で良い色合いや良い風合いを出してくれるバックスクリーンだと思っているので、そのバックスクリーンを壊さないレイヤーを載せていくことを日々心掛けています。

(鰐氏) 新潟は、山のある富山とは対照的で目線が上下に動かない見え方のまち。やはり砂丘の存在はまちの景観として大きくないか？

(上山氏) タモリさんの番組で、新潟は平な所だが高い所もあると砂丘列を紹介。唯一まちを見渡せる場所。もうひとつは、田園地帯。あの風景は雪が溶けて土色になって、田植えの時期は一面湖。田植えが始まると少しずつ緑が増え、黄金色になるサイクルは、人間が手を加えた自然として都市の中に取り入れることができるよ。

(鰐氏) 金沢の緑。立山の圧倒的な見上げるようなものとは違い、囲まれた山々はとても優しい。まちの構造物に対して弱い存在かな？と思うが、量で勝てないならば何で勝つ？

(鰐氏) 金沢は山の存在をあまり感じないと思っていた。白山はあるが、存在感はあまりない。しかし、金沢のいろいろな所から見える山は、立山のような荒々しさはないが、それぞれ見え方が違う。生活や仕事をする中で、金沢の豊かな山の緑を感じるようになってきた。

(鰐氏) 大野は、スケールも自然物を上手に扱える、親しむことができる大きさ。良い場所、眺める場所を市民の人は以前から共有していたのか？

(峠岡氏) そのまちの人がガイドをして良いのは、そのまちの人しか知らない良い所を、人の出会いから紹介してくれるという部分。ふと行っただけではなかなか気付かないが、この店のお菓子が美味しいとか、ここのお酒が美味しいとか、ちょっと頼んで試飲させてくれるとか。そういうまちの繋がりの中で伝えられる部分はそのまちに住んでいる人しか持っていないだろう。

(鰐氏まとめ) 自然物の要素は理解しにくい、扱いにくいもの。現代においても、よく変わるし、水との戦いという歴史を経てきたが、やはりまだ未だに気候変動で大変なことになっている。

自然物の魅力というものをどう見せていくかというのは、どうデザインするか。デザインの役割として、分かりにくいものを分かりやすく伝えるということが大きな仕事。自然物という分かりにくいものをその中でどう解釈し、扱って行くかというのは、今後もずっと続けて行かなければいけない。



参加者集合写真

## ●北陸ブロックの今後の活動予定

### ◇都市環境デザイン会議in福井

日時：2021年春頃 会場：福井県

### ◇都市環境デザイン会議in新潟

日時：2021年秋頃 会場：新潟県

## 【お問合せ先】

都市環境デザイン会議北陸ブロック

幹事 ● 野嶋慎二 (福井大学教授)

事務局 ● 埴 正浩・高永智恵 (株)日本海コンサルタント

TEL 076-243-8281 / FAX 076-243-8309

E-mail m-rachi@nihonkai.co.jp

JUDI 北陸ブロックホームページ

<http://www.judi-hokuriku.gr.jp/>

JUDI 北陸ブロック Facebook ページ

<http://www.facebook.com/judi.hokuriku>